

ジャンボタニシ対策

1. ジャンボタニシの生態

一般的にジャンボタニシといわれているものは、学名を「スクミリングカイ」と言い、食用にするため輸入され水田で養殖が始められました。その後養殖が放棄され水田や水路で繁殖して水稻などに被害をあたえています。

(1) 卵

ジャンボタニシの卵は赤く、長さ3cm、幅1.5cmほどで水上の植物やコンクリート壁などに産み付けられます。孵化までの期間は、温度によって大きく異なりますが、25℃の場合は2週間程度です。繁殖の期間は4月～10月ごろです。菊川市内でも、水路の壁の水の上や稲の苗の水の付近に見受けられました。



(2) 成長、寿命

条件がよければ2か月程度で成熟します。オスは殻高25mm、メスは30mm程度で繁殖可能となります。さらに成長する5～6cm程度になり在来のタニシよりも体型がかなり大きくなります。日本の水田では、基本的に1年数か月しか生きないようです。



(3) 環境耐性

大変乾燥に強い貝です。半年以上水がなくても生き延びることができるといわれています。寒さには弱く、 -3°C ではほとんどの個体が3日以内に死にます。大きなジャンボタニシは、土にもぐるのが下手なため、冬季はほとんどが死んでしまいましたが、小さなジャンボタニシが水田の土壌内や水路等で越冬し、気温が上昇し、水田に水が張られると活動を開始します。

(4) 食性

食べ物は、水稻（田植え直後の稲）やレンコン（幼葉）といった柔らかい物を好んで食べる雑食性です。稲は、大きくなるとほとんど食べなくなります。（田植え後3週間程度まで）

(5) 天敵

ネズミ、サギ、カモ（アヒル）、スッポン、コイ、フナ、ホタルの幼虫、ヒルなどが天敵として挙げられます。

2. 被害と捕獲

市内では、田植え後の稲の苗が食べられてしまう被害が出ています。

平成30年度は、主に小笠地区の棚草地区、嶺田・堂山新田地区、上平川地区の順で発生が多く見受けられました。菊川地区では、神尾地区、横地地区、河城地区で多く見受けられました。

市では排水路に生息するジャンボタニシの捕獲を実施し、4月から7月までに約3トンものジャンボタニシを捕獲しました。

3. 駆除対策

(1) 耕種的防除

田植え前

ア 圃場耕起

貝は地下0～5 cm で越冬します。厳冬期、田植前または秋の収穫後に乾いた水田で浅く回転を早くロータリー耕をし、貝を破壊してください。特に厳冬期が効果的とされているため、厳冬期に2回程度耕起するのが望ましいです。

生息地域拡大防止のため、トラクターなどを移動するときは、歯やアタッチメントをよく洗い、貝の生息域拡大防止に努めてください。

イ 侵入防止

取水口、排水口に20～25mm 目程度の金網を設置し、貝の侵入を防止します。その後、付着した貝を地面に置き、踏んですり潰すなど確実に捕殺してください。

ウ 早植え

気温が低いと貝の行動が抑えられ、また、貝は柔らかく小さい稲を好むので早い時期に植えると被害が少ないと言われています。

田植え後

ア 浅水管理

貝が水稻に被害を及ぼすのは田植え後3週間までです。また、水深2 cm 以下では貝が活動できません。そのため、この間は水深を浅く保つと実害がほとんどなくなります。田面の深いところでは貝が活動しやすく苗の被害が集中し、土が水から出ているところは除草剤の効きが悪くなるので圃場の凸凹がなくなるよう平らにすることが必要です。

イ 手作業で貝を殺す

手作業で貝、卵塊を見つけ次第捕殺してください。卵は、水中では呼吸できないので、水路の壁などから水中に削り落とします。下記のような誘引剤を使うと効率的です。

なお、ジャンボタニシには人体に有害な寄生虫がいる場合があるので、素手で扱わないようにしましょう。

また、捕殺した貝を可燃ごみとして処分する際は、貝からビニール袋を溶かす液体を出すため、袋を二重にすることや乾燥させてから袋に入れるなどして処分をしてください。袋が用意できない場合は、地中深くに埋めるなど、適正に処理してください。

《誘引剤等による捕殺事例》

市販のトラップや誘引剤を使うほか、次のような事例もあります。

○野菜で集めて捕殺する事例

圃場内の数か所に、野菜を置いておき、集まった貝を捕殺してください。スイカ、トマト、ナス、レタスなどを好むようです。（福岡県農試の報告）

○酒かすと小麦粉の団子で貝を集めて捕殺する事例

酒かすと小麦粉を混ぜて丸め、二重に重ねた市販のお茶パックの中に入れて完成です。田んぼの約 100 平方メートルの範囲に一個ずつ置き、3 日後、集まったタニシを除去してください。網の上に誘引剤を置けば近寄ったタニシを一網打尽にできます。（沖縄県の事例）

○段ボール片で貝を集めて捕殺する事例

30cm 四方の段ボール片を水路や畦畔に立てかけておきます。翌日、水面下の部分に貝が食いついているので捕殺してください。※ジャンボタニシは雑食であるため、段ボール片も食べます。（山口県の事例）

(2) 化学的防除法

ア 石灰窒素散布

田植前または稲刈り後に散布してください。(元肥の調整が必要)

《秋期の防除》

稲刈り後の水温が 15℃以上の時に 3～4 cm 水を張り、1～4 日放置し、石灰窒素(農薬登録があるもの) 20～30 kg/10 a を全面に散布して 3～4 日放置します。田面水は必ず自然落水して、田面が乾いたら耕うんしてください。

《田植え前の防除》

荒起こし後、3～4 cm 水を張り、3～4 日後石灰窒素(農薬登録があるもの) 20～30 kg/10 a を全面に散布して 3～4 日放置後に田植えを行ってください。

イ 育苗箱施用

パダン粒剤 4 を育苗箱施用することで食害防止効果があります。

ウ 本田施用

ジャンボたにしくん(殺貝)、スクミノン(殺貝)、スクミンベイト(殺貝)、キタジン P 粒剤(殺貝)、パダン粒剤 4(食害防止)のいずれかを散布することで、殺貝や食害防止の効果があります。

※注意

農薬の使用については、それぞれ適正な使用時期、量、回数に注意をしてください。また、魚や他の貝類へ影響するため、河川、水路での使用及び流水はしないでください。